

ボ ン ジ ュ ー ル

Bonjour!

ボンジュール (フランス語):

朝から夕方までの挨拶(あいさつ)の言葉。「こんにちは」「おはよう」



デュオ 旭爪姉妹友の会 2015年発行

〒738-0060

広島県廿日市市陽光台 5-9 アマノリハビリテーション病院内

☎info@hinotsume-shimai.jp

http://www.hinotsume-shimai.jp/fanclub/



— デュオ旭爪姉妹 — フランスの思い出 Vol.4



シリーズ第四回目の今回のインタビューでは、フランスでのコンクールの思い出などをお話いただきました。

Q. お二人は海外のコンクールで入賞されていますが、特に印象に残っていることなどがありますか？

A. 裕美子さん

私はフランス国内で行われたコンクール以外に、ノルウェーで開催されたグリーグ国際コンクールなどフランス国内以外でのコンクールにも参加しました。国内以外のコンクールの場合、移動での疲れや、限られた時間しか確保できない練習の中での演奏への不安感など、見知らぬ土地で自分のコンディションを整えながら本番で力を発揮する事の大変さを強く感じました。

Q. そういった中で、良い結果をだされたわけですが、どうやってコンディションを整えられたのでしょうか？

A. 裕美子さん

最初からうまくいったわけではありませんが、色々な経験をしていく中、いかにベストな状態でいつも通りの演奏が出来るかを考えるようになりました。その為にコンクールには、日程より早めに到着するようにして、会場や練習場所を確認しておいたり、期間中、体調を崩さない為にはお食事が大切なので、簡単な日本食などを必ず持って行くようにしていました。後は、コンクールの時は、妹について来てもらうと必ず良い結果になるというジンクスが自分の中であったので、無理を言って一緒に来てもらっていました。妹のお陰で緊張感も少し和らいで、落ち着いて演奏のことだけを考えることが出来ました。そういった演奏以外での不安の一つずつ取り除くことが、良い結果に繋がったように思います。

Q. 千恵さんが入賞されたコンクールは、どのような感じでしたか？

A. 千恵さん

私はちょうど日本に帰国する年に、グラズノフ国際コンクールを受けました。コンクールは4月だったのですが、2か月後の6月は、私の通う音楽院の卒業試験だったので、その前の良い勉強になればと思ったことと、留学中の勉強の成果を試せばという思いもあり、挑戦してみることにしました。またグラズノフは、私が中学生の頃初めて聴いて感動し、憧れたバイオリン協奏曲を作曲した作曲家だったので、グラズノフの名前がついたコンクールというだけで、受けてみたいという気持ちになりました。グラズノフがロシアの作曲家だということもあり、ロシアの優秀な学生の方達も受けに来られていたのでとても勉強になりました。

Q. そのコンクールで3位に入賞されたわけですが、結果がわかった時は、どんなお気持ちでしたか？

A. 千恵さん

私の前後に演奏した方達は、ロシアのまだとても若い学生でしたが、完璧なテクニックで、いとも簡単に難曲を弾きこなしていて、衝撃を受けました。それを聴いて、自分は賞に入るのは難しいだろうと思ったので、結果発表もみないで帰ろうとしたほどでした。ですから、結果を聞いて嬉しいというより、少しビックリしました。ただ自分自身は、卒業試験の前の良い練習と思っていたので、あまり緊張せず落ち着いて演奏できたので、今考えると、それが良い結果に繋がったのかなと思います。日本とは時差があり真夜中でしたが、心配していると思い、両親に電話をしたら、起きて連絡を待っていて、とても喜んでくれたので、その事が一番嬉しかったのを覚えています。結果に関わらず、留学中、日本からいつも励まし応援してくれた両親に、感謝の気持ちで一杯でした。

Q. 海外では、夏に音楽祭やセミナーが開催されるそうですが、その時のお話などお聞かせいただけますか？

A. 裕美子さん

私はニースやトゥールなどの講習会に参加しましたが、受講生はフランス以外の国からも沢山参加されていたので、自分のレッスンだけでなく他の方のレッスンも聴講させてもらい、勉強になりました。初めて参加した講習会では、フランス人の家庭にホームステイをさせていただいたのですが、まだフランス語も出来ない頃だったので、なかなか会話に入っていけなくて大変でした。ですがホームステイ先の方や他の受講生達と話をすることで、少しずつ言葉を学んでいくきっかけにもなり、音楽においても、また語学においても、良い経験をさせて頂いたと思います。期間中は毎日が充実していて、講習会の終わりが近づくと、いつも残念な気持ちになっていました。

A. 千恵さん

私は毎年ロワール地方、お塩で有名なゲロンドというところで開催される音楽講習会に参加していました。そこでは、パリの音楽院だけでなく、色々な音楽学校の生徒さん達が来ていたのでお友達も沢山できました。留学中の4年間、毎年参加していたので、1年ぶりに演奏を聴いてお互いの成長を褒めあったり、近況を報告しあったりしていました。私が初めて講習会に参加したのは、フランスに留学して2か月もたない頃だったのですが、フランス語もまだよく理解できないような状態だったのに、合宿のように毎日みんなで食事をしたり、室内楽の授業ではグループを組んで合奏したりと、頭がクルクルと回ってしまって1日目にしてぐったりしてしまい、今思い出してもどうやって切り抜けたのかな?とってしまうほどです。そんな私も留学生活4年たった最後の年には、夏休みすべてを使って、フランスでは講習会と音楽祭のセミナーに参加し、その後すぐにスイスで開催されたマスタークラスに参加するほどタフになりました。(笑)

Q. 音楽祭や講習会ではコンサートなども行われたと思いますが、何か思い出に残っていることなどがありますか?

A. 裕美子さん

期間中は色々な場所でコンサートが行われていましたが、先生方による素晴らしいコンサートも間近で聴けますし、受講生のコンサートもレベルが高く、大変勉強になりました。私はセミナーに行く前に、新しい曲を何曲か用意して、講習期間中に仕上げでコンサートで演奏することにしていました。短期間で曲を仕上げ、人前で演奏する事はとても重要なことなので良い経験になりました。思い出としては、コンサートにお世話になっていたホームステイ先の方達が、家族みんなで聴きに来て応援して下さいましたことがとても嬉しかったです。

Q. 千恵さんは音楽祭で、「若い優秀な演奏家」に選ばれてコンサートに出演されていますが、いかがでしたか?

A. 千恵さん

その音楽祭は私が日本に帰る前、最後に参加した音楽祭で、フランスのナンシーという所で開催されていました。そこに参加する生徒の中から選ばれた6人で、セミナーを受ける時間以外に地域のホールや美術館、病院などで、1週間ほど毎日コンサートをして回りました。その時のことが、日本に帰ってからの演奏活動につながっているように思います。その頃の私は、クラシックのコンサートはホールで演奏するというイメージしかなかったので、地域の方達に、気軽に、また身近にクラシック音楽を楽しんで頂けるコンサートというのは初めてで、とても貴重な体験でした。

有難うございました。フランスでのいろいろな体験が、今のお二人のコンサート活動に繋がっているんですね。

(__Bonjour!vol.7に続く)

「夢を叶えたゲストティーチャー」

私は昨年3月に定年退職をしましたが、教職生活40年間に沢山の出会い、沢山の思い出をつくることができました。沢山の感動をいただき、とても感謝しています。

その沢山の思い出の中の一つを紹介します。廿日市市立宮園小学校に赴任し、道徳教育に取り組んだ時のことです。私は、自分の夢をもち、諦めないで夢を叶える子どもを育てていきたいと思っていました。

6年生の担任が道徳の時間に、北京オリンピックで全日本バレーチームのエースとして活躍した栗原恵さんの実話に基づいて授業を行ったことがあります。

「幼い頃からバレーボールの選手に憧れ、夢を抱きつつも、壁は厚く、何度も苦難を経験しながら、それを乗り越えて夢を叶えた栗原選手の姿を通して、夢や希望をもつことの大切さに気づかせ、最後まで挫けずに努力しようとする態度を育てる」というのが授業のねらいでした。ただ、子ども達にとって、資料に出てくる人物が遠い存在だと、夢をもつことはできても、その実現となると、「この人だから実現できたのだ」という気持ちになってしまうのではという心配がありました。自分の夢をもって困難に挫けることなく、夢を叶えた人が自分達の身近な先輩にすることを知ったら、子ども達の意識が変わるのでは・・・そんな思いから、ゲストティーチャーとして道徳の時間のクライマックスに裕美さんと千恵さんに登場していただきました。真剣に聞いている子ども達の様子から、子ども達がお二人のお話にとっても感動しているのがよくわかりました。お二人は、「自分の夢を叶えるためにフランスに留学し、一生懸命努力したこと」「頑張ってもうまくいかないときは、夢を諦めてしまいそうになったけれど、練習することが挫けそうな自分を救ってくれたこと」などを、子ども達の前で話してくださいました。自分の夢を叶えたお二人にも挫けそうになったことがあったこと、諦めないで努力することで大きな壁を乗り越えることができたことなど、裕美さんと千恵さんのお話は、子ども達に頑張れば自分にもできるんだという思いを起こさせることが出来たものと信じています。

自分達の身近な先輩である裕美さんと千恵さんとの素晴らしい出会いによって、自分の夢を諦めないで努力することが、必ず夢の実現に繋がるのだということ、子ども達は学ぶことができました。裕美さん、千恵さん、子ども達のために素晴らしいお話を、そして感動的な演奏を有難うございました。子ども達の心に素晴らしい灯を点していただき有難うございました。どうぞこれからも子ども達や沢山の皆様に夢と感動を届けてください!

(廿日市市立宮園小学校 元校長 山田里美)



「竹製のヴァイオリンに寄せて」

旭爪千恵さんが竹製のヴァイオリンを使って初めて演奏披露されたのは、平成22年9月8日のこと。初めて製作されて奇しくも約60年後のことでした。裕美子さんも会員である鯉城同窓会(広島一中と国泰寺高校同窓会)二木会の席上でした。

千恵さんが奏でる竹製ヴァイオリンの音色は、柔らかで、用意された「日本の唱歌」にととてもマッチして、心が和むようでした。質実剛健が染みついている100名を越えるOBの皆さんが静まりかえり、穏やかに聴いている様子は、風格さえ感じられ、まさに音楽は人を変えることが出来るのではないかと感じたことでした。



竹製のヴァイオリンは、終戦後の物不足時代の昭和25年頃に作られたと思われます。ラベルには「広島県製第一号」の文字と、「ストラディバリウスの形を元に」と書かれています。広島県の匠の技術が反映されていることを誇らしく思います。このヴァイオリンを当時使っていたのは、高校生だった中山晴深さん(現在大阪市在住)。豊かでない時代に「バイオリン部」があったことも印象的です。そして、同窓会事務局へ持参されたのが平成16年秋のこと。木造新築の国泰寺高校本館の写真と演奏中の写真が添えられていました。

それから6年後、旭爪姉妹が二木会に招かれ、演奏されることを機に「竹製のヴァイオリン」演奏をお願いしました。千恵さんをお願いして、まずはヴァイオリンの修理から。プロの修理師が、いつ壊れてもおかしくないような状態を慎重に扱い、何とか完成したのが演奏当日の午後だったとか。修理にまつわる秘話も話して頂きました。「修理」と一言で片づけられない大変な世界ということも分かりました。

平成25年3月、鯉城関西同窓会総会での演奏会に旭爪姉妹が招かれ、会員一同、静まり返ってお二人の演奏にじっと聴き入りました。60年ぶりに甦った昔日のヴァイオリンが、千恵さんの演奏によって皆さんに素晴らしい感動を与えてくれたことを、当日出席された中山晴深さんも、大変喜んでおられました。

多くの人達に音楽の感動を与え続ける旭爪姉妹、そしていつも温かい眼差しで支えて下さるご両親に感謝しつつ、今後の更なるご活躍を祈っております。

(鯉城同窓会 元事務局長 桑野恭彬)

※竹製のヴァイオリン

戦後間もない頃、広島で作られた竹のヴァイオリン。ヴァイオリンはヨーロッパなどでは松科の木や樅ノ木を使って作られるが、それがほぼ全て竹で出来ており、大変珍しい楽器。約60年経って千恵さんのもとへ渡り、演奏出来るところまでに修復され、現在はコンサートで演奏される機会も増えている。



「二輪の清らかな百合の花」

国語の始めが**あいうえお**であるように、音楽の始めは誰もが**ドレミ**の音階から習い始めたはずである。しかし私が習った**ド**の音は、他の人とはどうも少し違っていらしい。それを認識したのは中学生の音楽の授業であった。世に言う音痴という事だ。ところが最近少し音がとれるようになった。カラオケセットを買い練習しているうちに、自分の音が聞こえるようになった。つまり、音痴の原因は音を良く聞いていなかったと言うことであった。



旭爪姉妹の存在を認識したのは、毎週金曜日の朝10時から多くのファンの方が聞いておられる「FMはつかいち」の看板番組「デュオ旭爪姉妹のクラシックをご一緒に♪」である。そのご縁でコンサートにも何度か足を運び、優雅な空間を共有させていただいた。また、その度ごとに丁寧なお手紙をいただき、細やかな心配りに感銘を受けた。

野球を志す人の九割は高校までで野球人生を終え、25歳以上まで続ける人となると1パーセントしかいないという話がある。野球に比べ音楽を長くやり続ける方は多いだろうが、プロとしてコンサートを開き、ファンを持つことの出来る音楽家も一握りのはずだ。楽譜通りに音を出すだけで無く、作曲家の心情とか背景を元に音の強弱やリズムで表現する。しかしわずかの音の違いがその方々の魅力となり、根強いファンを増殖させる要因となるのだろう。皆様もよくご存じのように、旭爪姉妹の感謝の心を忘れない優しいお人柄が楽譜には書かれていない音の響きとなり、我々の心に共鳴するのではないだろうか。

話はいささか飛躍するが、噂では伺っていたご姉妹に初めて会ったのは約1年前、ある会の集まりで拙宅にお越しいただいた時のことである。他の方々にはいささか失礼かもしれないが、お二人の清々しい白い百合のようなお姿が際立っていた事が思い出される。会も終わりに近づいた時、誰かに「バイオリンは無いか？」と聞かれ、昔、インターネットで1万円で買ったバイオリン(誰も弾くことも無く、そのままでお蔵入りになっていた)を引っ張り出し、失礼を承知で千恵さんに演奏をお願いした。早速、千恵さんが箱から出してチューニングを始められたのだが、悲しいかな調整しても調整しても弦が伸びてどうにもならない。それでも諦めず30分くらい格闘していただいた結果、どうにか1曲弾いていただくことが出来たが、プロの千恵さんにとって、耐え難い時間だったと思い、誠に恐縮する次第であったが、その時の音色は、私にとってストラディバリウスよりも美しいものであった。

その後、ひろしま美術館でのご姉妹の演奏会でご両親にお会いする機会に恵まれ、このお二人の醸し出す高貴で爽やかな雰囲気は、このご両親のお育て方の賜物と納得した。今後ともお二人には高貴な心、欲の無い美しさで私たちの心を慰めてくれる演奏をお願いいたしまして、筆を擱かせていただきます。

(株式会社山崎本社 代表取締役 林正史)

「この親にして、この子あり」

デュオ旭爪姉妹のお父様、旭爪勝さんとの出会いは、今から数十年前、私の勤めていた中国電力岡山営業所営業課に、彼が新入社員として配属されてきたときだ。物腰が静かで礼儀正しい青年というのが旭爪さんの第一印象で、1年先輩の私は、旭爪さんの新入リーダーとして、仕事はもとより、人生設計についてもよく話しあった。それから2年後、私が倉敷営業所総務課に転勤すれば旭爪さんが玉島営業所事務課に転勤、私が岡山支店労務担当に転勤すれば旭爪さんが倉敷営業所総務課に転勤、私が本店教育課に転勤すれば旭爪さんが岡山支店労務担当に転勤、そして私が本店広報課に転勤すれば旭爪さんが本店教育課に転勤、といった具合で、1年おきに3度も旭爪さんに事務引き継ぎをするといった珍しい関係が続いた。

私が結婚した2年後、旭爪さんも倉敷の大原美術館に勤めていた才媛と結婚され、長女の裕美子さんが誕生された。先に私が長男を授かっていたので、いずれは二人を結婚させようと思ったこともあった。また私が広報課で社内報担当をしていた時、社内で有名人の『そっくりさん』を取り上げた企画を連載し、嫌がる旭爪さんを『南ベトナムのグエンカオキ大統領』のそっくりさんとして登場させたところ、『尾上菊之助と藤純子のゴールデンカップル』のそっくりさんの方がふさわしいのではとの声が上がりに、ご迷惑をかけたことも懐かしい思い出である。

それから旭爪さんは、人事や企画、人材育成の道を歩み、社内外の人望を集め、要職に就かれた。私も東京勤務や松江の勤務もあり、旭爪さんとの付き合いがやや疎遠になっていたが、久しぶりに会って話をしたとき、二人の娘さんがフランスに留学していると聞いたので、「脛はかじられて大丈夫か」というと、嬉しそうに「まだしっかりしています」との返事が返ってきた。その後、私はテレビ新広島で第2の人生を歩み始めるようになり、時々お互いの近況を話していると、二人の御嬢さんが帰国し、デュオ旭爪姉妹を結成し、演奏活動をはじめたとのことだった。

今後広島での演奏活動の幅が広がればと思い、ひろしま美術館での演奏を当時の宇田館長にお願いしたところ、「そのような立派なお二人が育てられたお嬢様なら願ってもないことだ」と快く内諾を頂くことが出来たので、デュオ旭爪姉妹に連絡して、TSSでお二人にお会いした。おしとやかな中にもユーモアのある、しっかりしたお二人に魅了され、さすが旭爪さんご夫妻が手塩にかけて育てられたお嬢様だけある、と感心し、この親にしてこの子ありを実感した。そして、当時ひろしま美術館の部長であった佐々木さんに、二人をご紹介し、早速美術館のミュージアムコンサートで演奏することになった。ひろしま美術館でのお二人の演奏は、好評で現在も続いており、今は亡き前宇田館長に感謝申しあげている。

私が広島ロータリークラブのプログラム委員長の時には、ゲストとしてデュオ旭爪姉妹にお越し頂き、素晴らしい演奏をして頂き、先般2回目の演奏もして頂いた。裕美子さんのゆったりしたピアノ演奏に千恵さんのヴァイオリンの演奏は、音楽に素人の私にとっても気持ちの良いもので、聴く人を心地よい世界に導いてくれる、まさに“音楽”ではないかと思う。演奏の合間の姉妹の語りはなかなかのもので、幅広い経験と教養が身につけており、今後益々ファン層が広がっていくのではと思う。現在「FMはつかいち」の定期番組への出演、はつかいち音楽祭への出演、世界文化遺産宮島観光大使の勤め等、地元での活動はもとより、広島を代表する演奏家として、まだまだ活躍の場を広げ、羽ばたいて欲しいと思っている。私も、できる限りの応援をしますので、頑張ってくださいね。



私たちがデュオ旭爪姉妹を応援しています。

(株式会社テレビ新広島 代表取締役会長 永野正雄)

医療法人ハートフルグループ

<p>内科・リハビリテーション科</p> <p>アマノリハビリテーション病院</p> <p>TEL 0829-37-0800</p> <p>廿日市市陽光台 5-9</p>	<p>内科・心療内科</p> <p>あまのクリニック</p> <p>TEL 0829-31-5151</p> <p>廿日市市串戸 5-1-37</p>	<p>介護付有料老人ホーム</p> <p>CASA MIA</p> <p>TEL 0829-37-1133</p> <p>児童デイサービス</p> <p>おひさま</p> <p>TEL 0829-37-1166</p> <p>廿日市市陽光台 3-1-3</p>	<p>介護付有料老人ホーム</p> <p>望海の里</p> <p>TEL 0829-56-4580</p> <p>廿日市市宮島口東 2-13-15</p>
<p>お土産に、ご贈答に・・・</p> <p>第24回全国菓子大博覧会 名誉総裁賞 安芸銘菓 桐葉菓</p> <p>第21回全国菓子大博覧会 名誉無鑑査賞 宮島銘菓 もみじ饅頭</p> <p>やまだ屋</p> <p>本店 / 廿日市市宮島町 835-1 ☎(0829)44-0037</p> <p>おおのファクトリー / 廿日市市沖塩屋 2-10-52 ☎(0829)55-0001</p>		<p>からだにやさしい自然栽培 高カテキンのケニア紅茶</p>  <p>ケニア紅茶最大の特長は無農薬栽培です。熱帯地域のため気温が低い高地（標高1,600m以上）で栽培されていること、アジア大陸から隔離され深刻な病害虫がないことが理由です。</p> <p>ケニア紅茶ほかフェアトレード商品のご購入はこちらから・・・</p> <p>SHOP ASANTE(ショップアサンテ)</p> <p>http://www.shop-asante.jp/</p> <p>ラボテック株式会社 食品事業チーム</p> <p>〒731-5128 広島市佐伯区五日市中央 6-9-25</p> <p>TEL 082-921-5531 FAX 082-921-5532</p>	
<p>有限会社 大方塗装</p> <p>廿日市市原 526-6</p> <p>TEL.(0829)37-4727</p> <p>FAX.(0829)37-4728</p>		<p>増井運送</p> <p>広島市西区己斐上 2丁目 6-2</p> <p>☎(082)271-3564</p>	<p>コンディトライ・フェルダージュ</p> <p>廿日市市上平良 220-2</p> <p>☎(0829)37-2760</p>
		<p>黒の森</p> <p>廿日市市新宮 2丁目 14-14</p> <p>☎(0829)32-6614</p>	<p>カメラのキタムネ</p> <p>廿日市・ブラッセ宮内店</p> <p>廿日市市宮内 4450</p> <p>☎(0829)39-8566</p>